

■課題

里山里海の整備を担う人々の高齢化によって耕作放棄地などが増えている。

■解決策

自然に対する知識や関心を持った人材を育成し若いボランティアの人員を増やす。
→子供の自然に対する興味・関心を増やすために学校に対する助成事業を増やして、自然体験活動への参加を促す。

■現状（課題の背景）

現在、能登には耕作放棄地や土砂崩れの危険性のある地域が多い。その理由として、整備がボランティアに依存していることと、若いボランティアが不足していることがある。若いボランティアが不足していることは、自然に対する興味・関心や知識がある人が減っていることが原因のひとつであると考えた。また、自然体験活動に対してどのような助成事業が行われているのかを調べた。

里山里海に関するアンケート

- Q1 能登の里山里海が世界農業遺産に登録されていることを知っているか。
- Q2 里山里海とは何か説明できるか。
- Q3 里山里海の保護活動に興味・関心を持ったことがあるか。

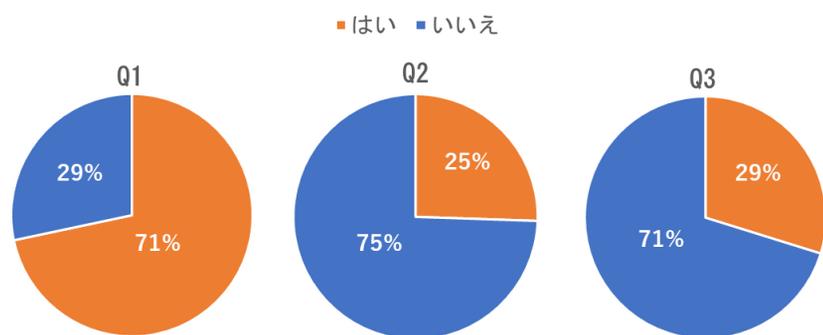


図1 里山里海に関するアンケートの結果

里山里海に関して存在は知っていても興味・関心や知識を持っている人が少ないことがわかる。

※アンケート対象:本校3年113名

助成事業について

- 石川学校版環境 ISO¹⁾
優れた里山づくり活動を実践する優良校への補助金。
➢ エコギフト事業
特に優れた活動を行っている学校・地域に対しての環境教育教材や、機材などを「エコギフト」として贈呈。
- 森づくりボランティア²⁾
NPO や小中高等学校等の森林ボランティア活動や森林環境教育への支援。
- こども森の恵み推進事業³⁾
子供達を対象とした植樹、炭焼き等の森林体験活動、森林環境教育への助成。



(引用) こども森の恵み推進事業報告
https://ameblo.jp/2012asunaro10/entry-11703836035.html?msslk_id=6fa46062d0d711ecb9e50e4841cc5e2d

→助成事業の数が少ない

■具体的内容

- 学校で自然保護を目的とした自然体験活動の助成事業の数を増やす。
- 学校で能登の自然が失われていることを学ぶ機会として自然体験学習や座学の間を設ける。

■効果

学校への補助金を増やすことにより、学校の自然体験活動が増え、こどもの頃から自然に触れ、里山里海が変わりつつある現状を学ぶことで自然保護に対して興味・関心が高まる。また、助成事業を増やすことによって、ボランティアに参加しやすい環境を作ることによって、ボランティアに参加する人が増えて、里山里海の整備がより整う。

■参考文献

- 1)石川県ホームページ 石川学校版環境 ISO
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/iso/ontaiiso.html> (参照 2022-03-04)
- 2)石川県ホームページ 森づくりボランティア
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/moridukurivolunteer/moridukurivolunteer.html> (参照 2022-03-04)
- 3)いしかわ森林環境基金事業補助金交付要綱
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/shinrin/kikaku/kankyousei/documents/210401kankyokikin_youkou.pdf (参照 2022-03-04)